

翻師範學
校編輯
日本略史
一

K110.2

53

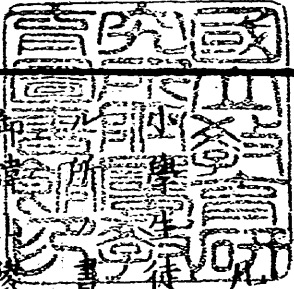
師範學校編輯

日本畧史

明治八年四月

文部省刊行

日本畧史



刊

ハ受業ノ時間ニ定期アルヲ以テ授ク
御請山陵等ヲ省キテ文中ニ御奉給等ノ文字ヲ

缺ク其ノ紙張ヲ減センコトヲ欲スレハナリ

飯豐天皇ヲ歷代ニ列セサルハ古事記及日本紀

ニ據ル

長慶天皇ハ新葉集ノ序ニ據リテ亦歷代ニ列セ

凡例
文部省

遣唐使遣新羅使ノ類ハ事故アルニ非ノハコレ
ヲ省ク諸臣ノ官位及其ノ姓ヲ記サ、ルモ亦簡
略ヲ主トスレハナリ

日本略史上卷

木村正辭 編

那珂通高 訂

第一代神武天皇ハ天照大神五世ノ孫ニシテ、鸕草葺不合尊ノ子ナリ

天祖天照大神ノ子ヲ天忍穗耳尊ト稱ス、天忍
穗耳尊彦火瓊杵尊ヲ生ム、天祖高天原ニ在
リテ、武甕槌經津主ノ二神ニ命シ、華原中、國ヲ、
日本國ノ平定ヒシメ、皇孫彦火瓊杵尊ニ賜
古名ナリ、三種ノ神器ヲ以テシ、其ノ國ニ降ラレメ

テ、主トス、彦火瓊々杵尊日向國ニ居リ、彦火々出見尊ヲ生ム、彦火々出見尊ノ子ハ、即鷓鴣草、
 尊不合尊ナリ

天皇生ナガラニシテ、明達ナリ年十五ノ時ニ立
 チテ太子トナリ、後、倭檀原宮ニ治ス、○初、天皇日
 向ニ在リテ、諸兄及皇子等ニ告ケテ曰ク昔、天神
 此豐葦原瑞穗國日本國ノ古名ナリヲ、我百天祖ニ授ケレ
 ヲリ、降リテ西偏ニ居ルコト、多ク年所ヲ歷タリ
 獨奈何セシ、建邈ノ地未、王澤ニ露ハス、邑ニ君ア
 リ、村ニ長アリ、以テ相陵轢スルヲ、吾將ニ東征シ

テ都ヲ中州ニ定メ、以テ天業ヲ恢ニシコトヲ
 欲スト、乃、親皇族ヲ帥非テ、舟師東ヲ指シ、筑紫、安
 藝、吉備等ノ國ヲ經テ、難波ヨリ河内 到リ、倭ニ
 入ラントス、長髓彦ト云フ者アリ、衆ニ悉シテ、ニ
 レヲ拒久、皇軍利アラズ、因リメ、轉ジテ路ヲ紀伊
 ニ取リ、丹敷戸畔ニ荒坂津ニ誅シ、頭八咫鳥ヲ以
 テ、鄉導トシ、荒田下、縣ニ至リ、兄摺ヲ誅シ、又、兄磯
 城等ヲ斬リ、遂ニ長髓彦ヲ征ス、是ヨリ先、饒速日、
 命天ヨリ降リテ、倭ニ居ル、長髓彦、コレヲ奉シテ
 主トシ、皇軍ニ抗ス、是ニ於テ、饒速日命、長髓彦ヲ



殺レテ降リ中州悉平ク
 天皇乃宮ヲ倭畝火檀原
 ニ經營シテ帝位ニ即ク
 寔ニ辛酉ノ年ナリ明治
 五年十一月詔ニテ太陰
 曆ヲ廢シ太陽曆ヲ用キ
 此ノ歲ヲ以テ紀元トス
 即今明治七年ヲ距ルコ
 ト、二千五百三十四年ナ
 リ○天皇在位七十六年

一レテ崩ク年百二十七

弟二代綏靖天皇ハ神武天皇ノ子ナリ天皇ノ庶
 弟手研耳命陰ニ不軌ヲ圖ル天皇コレヲ覺リテ
 同母兄神八井耳命ト謀リコレヲ誅ス○葛城ニ
 都スコレヲ高岡宮トイフ在位三十三年ニレテ
 崩ス年八十四

弟三代安寧天皇ハ綏靖天皇ノ子ナリ都ヲ牛鹽
 ニ遷スコレヲ浮穴宮トイフ在位三十八年ニレ
 テ崩ズ年五十七

弟四代懿德天皇ハ安寧天皇ノ子ナリ都ヲ輕ニ

遷スコレヲ曲峽宮トイフ、在位三十四年ニシテ崩ズ年七十七

第五代、孝昭天皇ハ、懿德天皇ノ子ナリ、都ヲ掖上

ニ遷スコレヲ池心宮トイフ、在位八十三年ニシテ崩ズ年百十四

第六代、孝安天皇ハ、孝昭天皇ノ子ナリ、都ヲ室ニ

遷スコレヲ秋津島宮トイフ、在位百二年ニシテ崩ズ年百三十七

第七代、孝靈天皇ハ、孝安天皇ノ子ナリ、都ヲ黑田

ニ遷スコレヲ廣戸宮トイフ、在位、ヒト六年ニシテ崩ズ年百二十八

第八代、孝元天皇ハ、孝靈天皇ノ子ナリ、都ヲ輕

遷スコレヲ境原宮トイフ、在位五十七年ニシテ崩ズ年百十六

第九代、開化天皇ハ、孝元天皇ノ子ナリ、都ヲ春日

ニ遷スコレヲ率川宮トイフ、在位六十年ニシテ崩ズ年百十五

第十代、崇神天皇ハ、開化天皇ノ子ナリ、都ヲ磯城

ニ遷スコレヲ瑞籬宮トイフ、天皇神祇ヲ尊崇レ、

皇女豐鍬入姫命ヲシテ、天照大神ヲ、倭ノ豎縫、邑

皇女豐鍬入姫命ヲシテ、天照大神ヲ、倭ノ豎縫、邑

ニ、祀ラシム、初大神寶鏡ヲ皇孫ニ賜シテコレヲ、
 殿内ニ奉ヒシム、是ニ至リテ其ノ威ヲ瀆サシコ
 トヲ畏ル、故ニコレヲ遷シテ別ニ鏡劍ヲ模造セ
 シメ、御座ニ置ク、又天社、國社ヲ定ム、○將軍ヲ北
 陸、東海、吉備、丹波ノ四道ニ遣ハス、會武埴安彥反
 ス、討チテコレヲ平グ、○始メテ、人民ヲ校シテ、以
 テ調役ヲ課ス、又諸國ニ令シテ、船舶ヲ造ラシム、
 任那國始メテ來貢ス、○天皇深ク心ヲ民事ニ用
 井、天下大ニ治ル、民稱シテ、御警國天皇トイフ、在
 位六十八年ニシテ崩ズ、年百十九、

第十一代垂仁天皇ハ、崇神天皇ノ子ナリ、都ヲ纏
 向ニ遷スコレヲ珠城宮トイフ、○皇后狹穗姫ノ
 兄狹穗彥不軌ヲ圖リ、皇后ヲ誘ヒ逆ヲ行ハシメ
 ントス、皇后實ヲ天皇ニ告グ、天皇ハ綱田ニ命ン
 テコレヲ討タシム、狹穗彥拒守ス、皇后、兄ヲ救ハ
 ンコトヲ欲シ、皇子譽津別尊ヲ抱キテ城中ニ投
 ズ、八綱田火ヲ縱チテ、城ヲ焚ク、皇后乃皇子ヲ出
 タシテ、兄ト共ニ城中ニ死ス、○新羅國ノ王子天
 日槍來リテ、鏡王、刀、鉾等ヲ獻ズ、○皇女倭姫命ヲ
 シテ、豐鍬入姫命ニ代ヘテ、天照大神ヲ祀ラシム

倭姫命神教ニ隨ヒテ、祠ヲ伊勢ノ度會ニ遷ス。○語シテ、殉死ヲ禁ズ、野見宿禰、土偶ヲ造リテ、殉ニ代ヘムコトヲ請フ。天皇コレヲ嘉シテ、立テ、永制トシ、土師、臣ノ姓ヲ賜フ。野見宿禰、嘗テ、倭ノ當麻跡速トカラ角ハテ、コレニ克ツ、是、朝廷相撲ノ

野見宿禰土師ラシテ土偶ヲ作ラレムル圖



儀ノ權輿ナリ。○天皇、在位、九十九年ニシテ崩ス、年百三十九。

第十二代景行天皇ハ、垂仁天皇ノ子ナリ、纏向ニ都ス。コレヲ、日代宮トイフ。○筑紫ノ熊襲反ス、天皇親征シテコレヲ平ク、既ニレテ熊襲再反ス、皇子日本武尊ヲシテ、コレヲ討タシム。皇子時年十六、女装シテ、賊巢ニ入り、其ノ首ヲ刺ス。餘衆咸服ス。又皇子ヲシテ、東夷ヲ征セシム。皇子乃伊勢ニ到リ、神宮ヲ拜ス。倭姫命授ルニ、叢雲劍及燧袋ヲ以テス。皇子、駿河國ニ到ル、虜伴リ降リテ、皇

子ヲ誘ヒ、游獵セシメ、火ヲ放テ、其ノ野ヲ焚ク。皇子燧ヲ以テ、火ヲ出ダシ、コレヲ逆ヘ、燒キ、劍ヲ挺キテ、草ヲ薙ギ、頼リテ以テ、免ル。コトヲ得タリ、是ヨリ、叢雲劍ヲ改メテ、草薙劍トイフ。今、猶熱田ノ神宮ニ祀ル者、是ナリ。皇子遂ニ進ミテ、相摸ヨリ、上總ニ航セントス。海ニ暴風ニ遇フ、船楫皆神ニ祈リテ、海ニ投ス。暴風即止ム。船岸ニ達スルコトヲ得タリ。皇子進ミテ、蝦夷ノ境ニ到ル。賊皆風ヲ望ミテ、降り邊境悉ク平ク。皇子還リテ、碓日嶺ニ登リ、東南ヲ顧ミ、橘媛ヲ追慕シ、歎シテ曰ク、吾孀

者耶ト、山東ノ諸國、コレニ因リテ、今猶吾孀國今。閩今ト稱ス。皇子伊吹山ニ至リ、山神ノ毒氣ニ中リテ、病ム。乃夷侍ヲ、伊勢ノ神宮ニ獻ジ、吉備武彦ヲシテ、京ニ復命セシメ、遂ニ、伊勢ノ能褒野ニ薨ズ。時ニ、年三十。天皇大ニ悼惜シ、其ノ功ヲ録シテ、武部ヲ定ム。○天皇、近江國ニ幸レテ、志賀ニ居ルコト三年、コレヲ、高穴穗宮トイフ。在位、六十年ニシテ崩ス。年百四十三。

第十三代、成務天皇ハ、景行天皇ノ子リ、高穴穗宮ニ即位ス。武内ヲ大臣トス、大臣ヲ置クコト、此

ニ始マル國郡ニ造長ヲ立テ縣邑ニ稻置ヲ置キ
山河ヲ界ヒテ國縣ヲ分ツ在位六十年ニテ崩
ス、享年未詳
ナラズ

第十四代仲哀天皇ハ景行天皇ノ孫ニシテ日本
武尊ノ第二子ナリ大伴武以ヲ大連トシ大連ヲ
置クコト此ニ始マル天皇皇后ト越前ノ角鹿ニ
幸ス既ニシテ皇后ヲ留メテ紀伊ニ巡狩ス會熊
襲反ス天皇親征シテ長門ニ至リ宮室ヲ造リテ
コレニ居ルコレヲ豐浦宮トイフ皇后亦至ル
與ニ進ミテ筑紫ニ幸シ香椎宮ニ居リ群臣ヲ會

シテ議ス時ニ神アリ皇后ニ憑リテ曰ク熊襲ノ
如キハ師旅ヲ勞スルニ足ラズ西方ニ寶國ノリ
新羅トイフモシ能ク我ヲ祭ラバ其ノ國必服レ
テ熊襲モ亦自從ハント天皇信ゼズ數月ヲ歷テ
香椎宮ニ崩ズ在位九年 享年未詳
ノラス

第十五代神功皇后ハ仲哀天皇ノ后開化天皇ノ
五世ノ孫ニシテ氣長宿禰王ノ女ナリ磐余ニ都
スコレノ若櫻宮トイフ○皇后仲哀天皇ノ崩ズ
ルニ及ビテ大臣武内ト謀リ秘シテ喪ヲ發セス
神教ヲ奉ジテ西征セントス會身ノルコト有リ



天産月ニ常ル、乃石ヲ腰
 ニ挿、祝レテ曰ク、願ク
 ハ事竟ヘテ還ラム日ニ
 茲土ニ媿セシメヨト、遂
 ニ新羅ヲ征ハ新羅王出
 デ、降リ、金銀、絹帛ヲ船
 八十艘ニ載セテ獻スコ
 レヲ調貢ノ定額トス、是
 ニ於テ、高麗、百濟ノ二國
 王モ亦降ルコトヲ三韓

トイフ、今ノ朝鮮國是ナリ、皇后因リテ官家ヲ置
 キ、還リテ統紫ニ到リ、皇子ヲ産ム、是應神天皇ナ
 リ、皇后朝ニ臨ミ、政ヲ攝スルコト、六十九年ニシ
 テ崩ズ、年一百

第十六代應神天皇ハ仲哀天皇ノ子ナリ、輕島
 都ス、コレヲ豐明宮トイフ、皇太后ノ攝政三年ニ
 立チテ太子トナリ、此ニ至リテ即位ス時ニ年七
 十一〇百濟王、其ノ國ノ博士王仁ヲシテ、治工卓
 素、長服、西素等ヲ率井テ入朝セシメ、論語及千字
 文ヲ獻ズ、皇子菟道稚郎子、王仁ヲ師トシテ學ブ

日本書紀 卷之八 孝德天皇 八 九

高麗ノ使者來リテ表ヲヒルニ及ビテ推郎子其
文ヲ以テ倭邊ナリトシ奏シテ使者ヲ責メ表ヲ
壞ル○推郎子ヲ立テ皇太子トス○天皇在位
四十一年ニシテ崩ズ年百十一

第十七代仁德天皇ハ應神天皇ノ子ニシテ皇太
子ノ兄ナリ應神天皇崩ズルニ及ビテ皇太子位
ヲ天皇ニ讓ル天皇聽カズ位ヲ空シクスルコト
三年皇太子天皇ノ志奪フベカラズ知リテ
自殺ス是ニ於テ天皇遂ニ即位シ都ヲ攝津ノ難
波ニ遷スコレヲ高津宮トイフ一日天皇人烟ノ

稀少ナルヲ見テ民ノ貧シキヲ知リ相統ヲ除ク
コト三年百姓大ニ富ム○難波堀江ヲ鑿リ池溝
ヲ通シ堤防ヲ築ク民皆其ノ利ニ賴ル○蝦夷反
ス將軍田道ヲ遣ハシテコレヲ征セシム○天皇
在位八十七年ニシテ崩ズ享年未詳ナラス

第十八代履仲天皇ハ仁德天皇ノ長子ナリ磐余
若櫻宮ニ治ス佳吉仲皇子反ス稱齒別皇子反正天皇
コレヲ誅スニ皇子共ニ天皇ノ弟ナリ○天皇詔
シテ史ヲ諸國ニ置キ言事ヲ記シ四方ノ志ヲ達
セシム始メテ藏職ヲ置ク因リテ藏部ヲ定ム在

位、六年ニテ崩ス享年未詳

第十九代、反正天皇ハ、履中天皇ノ同母弟ナリ、都

ヲ河内ノ丹比ニ遷ス、コレヲ紫籬宮トイフ、在位

六年ニテ崩ス享年未詳

第二十代、允恭天皇ハ、反正天皇ノ同母弟ナリ、都

ヲ遠飛鳥宮ニ遷ス、反正天皇崩シテ嗣無シ、群臣

迎ハテ、天皇ヲ立ツ、天皇辭シテ許サス、群臣固ク

請フ、遂ニ即位ス、○天皇詔シテ、百官諸臣ヲ會ヒ

姓氏ノ詠冒ヲ正ス、在位四十二年ニテ崩ス享年未詳

第二十一代、安康天皇ハ、允恭天皇ノ子ナリ、允恭

天皇亦懇懇皇子ヲ立テ、太子トス、太子潘處ナ

ルヲ以テ、群臣望フ、天皇ニ歸ス、太子兵ヲ集メテ、

將ニ天皇ヲ襲ハントス、天皇群臣トコロテ攻ム、

太子自殺ス、因リテ即位シ、都ヲ石上ニ遷スコレ

マ、穴穗宮トイフ、○天皇母弟、大泊瀬皇子雄略ノ

為ニ、大草香皇子ノ妹、幡梭皇女ヲ聘セントス、使

者詐リテ、大草香皇子ヲ詔フ奉ゼズト奏ス、天皇怒

リテ、皇子ヲ殺シ、其ノ妃中蒂姫ヲ取りテ、皇后ト

ス、○初皇后、大草香皇子ノ家ニ在リテ、眉輪モヲ

生メリ、後天皇山宮ニ幸シテ、皇后ト宴ニ醉テ寢
ス。王、天皇ヲ弑シテ、大臣葛城圓ノ家ニ匿ル。時ニ
年七歳ノリ、天皇在位三年、年五十六
第二十二代雄略天皇ハ允恭天皇ノ子ナリ。天皇
峻刻ニシテ、伉健人ニ過キタリ、安康天皇ノ弑セ
ラル、ニ方リテ、天皇諸兄ヲ疑ヒ、兵ヲ率キテ、八
鈞白彥皇子ニ迫リ、遂ニコトヲ斬リ、圓ノ弟ヲ圍
ミ、火ヲ縱チテ、圓及眉輪王ト坂合照彥皇子トナ
焚殺ス。又市邊押磐皇子及御馬皇子ヲ殺シ、遂ニ
泊瀬朝倉宮ニ即位ス。○天皇嘗テ葛城山ニ獵ス、

野猪突キ至ル、舍人ニ命ニテ刺シ殺サシメント
ス、舍人怖レテコレヲ避ク、天皇怒リテ、舍人ヲ戮
セシトス、皇后備後皇女諫メテ曰ク、獸ノ故ヨ以
テ人ヲ殺サハ、豈豺狼ニ異ナランヤト、天皇欣然
トシテ曰ク、人ハ禽獸ヲ獲朕ハ善言ヲ獲タリト
乃舍人ヲ釋ス。○天皇、皇后ニ勅シテ、親桑ヲ採ラ
レメテ以テ蠶事ヲ勸ム。○吳人來聘シテ、工女漢
織、吳織、衣縫、兄媛弟媛ヲ貢ス。○豐受大神ヲ丹波
ヨリ伊勢ノ山田ニ遷シ祀ル、天皇在位二十三年
ニシテ崩ス、年六十二

第二十三代清寧天皇ハ、雄略天皇ノ子ナリ。磐余
 鸕粟官ニ治ス。皇弟星川皇子反ス。討テコレヲ
 平ク。天皇嗣無キヲ憂フルコト久シ。市邊押磐皇
 子ノ遺子、億計弘計ニ王。播磨國ニ在リト聞キ、迎
 ヘテ億計王ヲ立テ、皇太子トス。○天皇在位五
 年ニシテ崩ス。年四十一。
 第二十四代顯宗天皇ハ、即弘計王ナリ。清寧天皇
 崩シテ後、皇太子位ヲ天皇ニ讓ル。天皇固辭ス。是
 ニ於テ姑、飯豐青皇女政ヲ角刺宮ニ馳ク。九月ニ
 シテ皇女崩ス。皇太子及六臣平群、真鳥等固ク請

ス。因リテ近飛鳥ハ、鈿宮
 ニ即位ス。皇太子ハ仍故
 ノ如シ。○天皇父ノ害セ
 ラレシ時、尚幼ニシテ、其
 ノ墓ノアル所ヲ知ラズ
 因リテ父老ヲ環ニ、親臨
 シテ歷問、遂ニコレヲ
 近江ノ來田綿蚊屋野ニ
 得テ改葬ス。○天皇久シ
 ク民間ニ在リテ、百姓ノ

億計弘計ニ王起舞ノ圖



上
く
ま
り

疾苦ヲ知ル故ニ賦斂ヲ薄クシ貧窮ヲ恤ム又此年豐熟レテ穀一斛ノ直銀錢一文ナルニ至ル在位三年ニシテ崩ス年三十八

第二十五代仁賢天皇即億計王ナリ石上廣高官ニ即位ス天皇仁惠謙恕吏ハ其ノ職ニ稱ヒ民ハ其ノ業ヲ安クシ戸口蕃殖ス初顯宗天皇位ニ即キテ雄略天皇ノ陵ヲ發メ父ノ仇ヲ報セントス天皇コレヲ諫メテ止ム在位十一年ニレテ崩ス年五十

第二十六代武烈天皇ハ仁賢天皇ノ子ナリ仁賢

天皇崩スルニ及ビテ大伴平群真鳥潛ニ策奪ヲ謀リ其ノ子繡又天皇ニ禮ナリ是ニ於テ大伴金村ト謀リテ父子ヲ誅シ泊瀨列城宮ニ即位ス○天皇刑律ヲ好シ法令嚴明ナリ諸ノ器刑親臨セザルハ無シ民皆震怖ス在位八年ニレテ崩ス享年未詳ナラス

第二十七代繼體天皇ハ應神天皇ノ五世ノ孫ナリ父又孝主人王トイフ○天皇幼ニレテ孤ナリ母ニ從ヒテ越前ノ高向ニ居リ長ズルニ及ビテ大度アリ士ヲ愛シ賢ヲ禮ス武烈天皇崩レテ嗣

無シ群臣議レテ天皇ヲ迎ス天皇遂ニ河内ノ樟葉宮ニ即位ス後又都ヲ磐余ニ遷スコレヲ玉穗宮トイフ近江毛野ヲシテ新羅ヲ伐チテ任那ノ故地ヲ復セシム筑紫國造磐井友レテ謀ヲ新羅ニ通ス物部麤鹿火ヲレテ討チテコレヲ平ゲレム○天皇在位三十五年ニレテ崩ス年八十二

第二十八代安閑天皇ハ繼體天皇ノ子ナリ赤フ勾金橋宮ニ遷ス在位二年ニレテ崩ス年十一

第二十九代宣化天皇ハ安閑天皇ノ同母弟ナリ安閑天皇崩シテ嗣無シ群臣ノ請ニ因リテ即位

シ都ヲ檜隈ニ遷スコレヲ廬入野宮トイフ○詔シテ筑前ノ屯倉ヲ修レ以テ凶荒ニ備ヘシム在位四年ニシテ崩ス年七十三

第三十代欽明天皇ハ繼體天皇ノ子ナリ宣化天皇崩シテ嗣無シ群臣議シテ天皇ヲ迎フ因リテ即位ス都ヲ磯城島ニ遷スコレヲ金刺宮トイフ○百濟ヨリ佛像及經論ヲ獻ズ天皇コレヲ蘇我稻目ニ賜フ會諸國大ニ疫アリ物部尾輿等謂ヘラク蕃神ヲ禮スルノ致ス所ナリト因リテ奏シテ佛像ヲ難波堀江ニ投ス○新羅任那ヲ滅シ我

官府ヲ毀ツ、紀男麻呂、河邊瓊年ヲシテ、子シテヲ討タシム、瓊年、輕進シテ利ヲ失ヒ、擒ニセラル、調伊企儼コレニ死ス、①大伴狹手彦高麗ヲ討チテ、コレヲ破リ、其ノ都城ニ入り、珍寶ヲ得テ還ル、○天皇疾アリ、後事ヲ以テ、皇太子一屬シテ曰ク、新羅ヲ征レテ、任那ヲ復セヨト、遂ニ崩ス、在位三十二年、享年參詳ナラス



第三十一代敏達天皇ハ、欽明天皇ノ子ナリ、都ヲ譯語田ニ遷スコレテ、幸王宮トイフ、○天皇薨此、國造ノ子日羅久レク百濟ニ在リテ、夷情ヲ知ルヲ以テ、コレヲ召レ還シ、新羅ヲ伐ツノ策ヲ問フ日羅曰ク、夷ヲ服スルノ道、國本ヲ培養スルニ在リト、具ニ其ノ策ヲ陳ス、天皇コレヲ嘉ス、○蘇我馬子佛ヲ信ジ、寺塔ヲ建ツ、物部守屋中臣勝海コレヲ劾奏ス、馬子病ノ爲ニ、佛ニ禱ラシコトヲ讀

天皇乃勅レテ曰ク汝獨コレヲ爲シ他人ニ惑ハスコトオカレト○天皇在位十四年ニテ崩ス年四十八

第三十二代用明天皇ハ欽明天皇ノ子ナリ磐余ニ都スコレヲ池邊雙槻宮トイフ○敏達天皇ノ崩ズルニ及ビテ穴穗部皇子陰ニ覬覦ヲ懷キ又殞宮ニ入りテ其ノ皇后ヲ悉センコトヲ謀ル三輪逆コレヲ拒ム皇子怒リテ物部守屋ヲレテ逆ヲ殺サレム○天皇病アリ群臣ヲレテ佛ニ禱ラシコトヲ議セレム物部守屋中臣勝海コレヲ諫

ス蘇我馬子詔旨ヲ賛成ス穴穗部皇子僧ヨ引キテ宮ニ入ル守屋怒リテコレノ晚ハ是ヨリ馬子ト守屋勝海ト怨隙滋甚シ馬子迹見赤檮コレテ勝海ヲ殺サレム天皇在位二年ニレテ崩ス享年未詳

第三十三代崇峻天皇ハ欽明天皇ノ子ナリ用明天皇崩シテ嗣無シ物部守屋諸皇子ヲ去リテ穴穗部皇子ヲ立テントス蘇我馬子其ノ謀ヲ聞キ敏達天皇ノ皇右炊屋姫尊即稚古天皇ノ子ヲ殺サレム

又廐戶皇子ト謀リ、守屋ヲ攻メテ、其ノ族ヲ戮ス
是ニ於テ、炊屋姬、尊群臣ト策ヲ定メテ、天皇ヲシ
テ、即位セシム。倉梯宮ニ治ス。○蘇我馬子專橫日
ニ甚シ。天皇コレヲ疾ム。馬子懼シテ、東漢駒ヲシ
テ、天皇ヲ弑セシム。駒コレヨリ、馬子ノ寵ヲ恃ミ
其ノ女ヲ姦ス。馬子怒リ、駒ヲ殺シテ曰ク、吾君ヲ
弑セシメ、賊ヲ誅スト。○天皇在位五年、年七十三。
第三十四代推古天皇ハ、用明天皇ノ同母妹ナリ。
敏達天皇ノ五年ニ、皇太后ナリ。是ニ至リテ、豐浦
宮ニ即位ス。後、小墾田宮ニ遷ル。○廐戶皇子ノ立

テ、太子トシ、政ヲ攝セシム。太子及蘇我馬子ニ
詔シテ、佛法ヲ興隆セシム。是ニ於テ、群臣競ヒテ、
佛寺ヲ造ル。○百濟ヨリ、曆、天文、地理、遁甲、方術等
ノ書ヲ獻ス。太子憲法十七條ヲ撰ム。詔シテ、冠位
十二階ヲ定メ、又天皇詔、國記及諸臣、庶人等ノ本
記ヲ錄セシム。小野妹子ヲ、隋ニ遣ハシ、支那ト通
ズルコト、此ニ始マル。池溝ニ、倭山、背河内ニ、作リ
國毎ニ、屯倉ヲ置ク。在位三十六年ニシテ、崩ス。年
七十五。遺詔ニ、天厚ク葬ルコト勿カラシム。
第三十五代舒明天皇ハ、敏達天皇ノ孫ニシテ、押

坂彦人、大兄皇子ノ子ナ
 リ、都ヲ飛鳥岡ニ遷ス、コ
 レヲ岡本宮トイフ、○蝦
 夷反ス、上毛野形名ヲシ
 テ討チテコシラ平ケシ
 ヲ、其ノ妻夫ヲ助ケテ功
 アリ、○始メテ斗升斤量
 ヲ定ム、○天皇在位十三
 年ニシテ崩ス、享年未詳
 第三十六代皇極天皇ハ、



形名ノ
妻酒
大森
一九四

敏達天皇ノ曾孫ニシテ葦瀨王ノ女ナリ、舒明天
 皇ノ二年ニ皇后トナリ、是ニ至リテ、即位ス、飛鳥
 板蓋宮ニ治ス、○蘇我蝦夷ノ子入鹿政ヲ擅ニシ、
 父子相與ニ、不軌ヲ謀ル、中大兄皇子、天智中臣鎌
 足等ト謀リテ、父子ヲ誅ス、蝦夷誅セラル、ニ臨
 シテ、悉ク天皇記、國記、及珍寶ヲ焚ク、船、惠尺、國記ヲ
 火中ヨリ取リテ、中大兄皇子奉ル、○天皇位ヲ輕
 皇子、孝德天皇ニ讓ル、在位三年、
 第三十七代孝德天皇ハ、皇極天皇ノ同母弟ナリ、
 中大兄皇子ヲ立テ、皇太子トス、都ヲ難波長柄豐

崎ニ遷ス、此ノ時始メテ年號ヲ建テ、大化トイ
 マ、神武天皇即位紀元ノ年ヲ距ルコト、一千三百
 五年ナリ。○鐘匱ヲ朝ニ設ケテ、冤枉ヲ訴ヘシム、
 畿内ヲ定メ、關驛ヲ建テ、國造ヲ罷メ、國司郡司ヲ
 置キ、國界ヲ分チ、田制ヲ定メ、租庸調ノ法ヲ制シ、
 又冠ト三階ヲ定メ、更ニ十九階ヲ制シ、八省百官
 ヲ置ク、國家ノ制度、大ニ備ハル、在位、十年ニシテ
 崩ズ、年五十九。

第三十八代齊明天皇ハ、皇極天皇重陳ノ號ナリ、
 飛鳥板蓋宮ニ即位シテ、明年、飛鳥岡本宮ニ遷ル、

コレヲ後、飛鳥岡本宮ト云ク。○阿倍比羅夫、舟師
 ヲ率非テ、蝦夷ヲ征シ、遂ニ肅慎ヲ伐ク。○有間皇
 子、反ヲ謀ル事發シテ、誅ニ伏ハ、○新羅兵ノ唐國
 ニ借リテ、百濟ヲ伐ク、天皇、コレヲ救ハンコトヲ
 欲シテ、親舟師ヲ師キ、西州ニ辛シ、遂ニ筑紫朝倉
 宮ニ崩ス、在位七年、前後合セテ、十年ナリ、年六十
 八。
 第三十九代、天智天皇ハ、舒明天皇ノ子ナリ、都ヲ
 近江國ニ遷ス、コレヲ、大津宮トイフ。○天皇、至孝
 ニシテ、先帝ヲ殯スルコト、六年、明年ニ至リテ、始

マテ即位ノ禮ヲ行ス、○敕シテ冠位二十六階ヲ
 制ス、○中臣鎌足又大臣ニ任シ、大織冠ニ叙シ、藤
 原氏ヲ賜フ、大友皇子天武ヲ太政大臣トス、太政
 大臣、此ニ始マル侍臣ニ詔シテ律令ヲ撰ビ戸籍
 ノ法ヲ定メレシ、又大塚ヲ筑紫ニ築キテ、水ヲ貯
 ス、名ケテ水城ト云フ、始メテ御製ノ漏刻ヲ置キ
 鐘鼓ヲ擊ノテ、以テ時ヲ報ゼシム、○天皇病アリ、
 皇大弟、大海人、皇子天武ヲ召シテ、屬スルニ後事
 ヲ以テス、皇太弟、疾ト稱シ、固辭シテ僧トナリ、吉
 野ニ入ル、是ニ於テ、大友皇子ヲ皇太子トス、天皇

文學ヲ好ミ、治體ヲ明ニシ、學校ヲ興シ、典禮ヲ制
 ス、其文物憲章、粲然トシテ觀ルベシ、在位十年ニ
 シテ崩ス、年四十六、

第四十代、弘文天皇ハ、天智天皇ノ子ナリ、大津宮
 ニ即位ス、尋テ、大海人、皇子ヲ舉ク、天皇コレヲ
 征シテ克タス、近江國長等ノ山前ニ崩スコレヲ
 壬申ノ亂トイフ、在位七月、年二十五、明治三年、始
 メテ謚ヲ上ル、

第四十一代、天武天皇ハ、天智天皇ノ同母弟ナリ、
 飛鳥淨見原宮ニ即位ス、詔シテ律令ヲ定メ、帝紀

律令ヲ定メテ撰録ノ圖



及上古ノ事ヲ撰録セル
 ヲ又親王ヨリ庶人ニ至
 ルマテノ服色ヲ分チ天
 下諸氏ノ姓ヲ定メテ八
 種トシ爵位ノ制ヲ改メ
 テ諸王ニ十二階諸臣ヲ
 四十八階トス○諸國ノ
 境域ヲ定メ○天皇在位
 十五年ニレテ崩ス
享年未詳

第四十一代持統天皇ハ天智天皇ノ女ニレテ天
 武天皇ノ皇后ナリ天武天皇崩スルニ及ヒテ朝
 ニ臨ミ政ヲ聽ク後三年皇太子草壁薨ニ因リテ
 即位シ藤原宮ニ治ス○大津皇子反ヲ謀リ事發
 シテ死ヲ賜フ○詔シテ服色ヲ定メテ七種トシ
 朝堂座上ノ禮ヲ制メテ元嘉曆ト儀鳳曆ト
 ヲ行フ又陣法博士ヲ諸國ニ遣ハシテ武ヲ講セ
 レム○天皇位ヲ珂瑠皇子文武天皇ニ譲ル在位十年
 大寶二年十二月崩ス年五十八
 第四十三代文武天皇ハ岡宮天皇天武帝ノ太子

日本書紀 卷之六 天武天皇 三十一

子ナリ、藤原官ニ即位ス、持統天皇ヲ尊ビテ、太上天皇ト稱ス、太上天皇ノ號此ニ始マル、○詔シテ、官名位號、服色ヲ改メ、位記ヲ用井テ、位冠ヲ賜フ、コトヲ傳ム、律令ヲ撰定シ、新律度量ヲ頒ツ、又田租ノ法ヲ定ム、在位十一年ニシテ崩ス、年二十五、第四十四代、元明天皇ハ、天智天皇ノ女ニシテ、文武天皇ノ母ナリ、都ヲ平城ニ遷ス、以下光仁天皇、至ハマテ此、都スル、コト七代、○陸奥越後ノ蝦夷反ス、伐ナテコレヲ平グ、○姥メテ都亭驛ヲ置キ、又桃文師ヲ諸國ニ遣ハレテ、錦綾ノ織ルコトヲ教ヘシム、○太安麻呂、古事記ヲ上ツル、又諸國ニ詔シテ、風土記ヲ奉ラレメ、郡郷ノ名務メテ佳字ヲ用非シム、○使ヲ七道ニ遣ハレテ、囚徒ヲ録セシム、○陸奥出羽ノ蝦夷、南島ノ奄美、夜久、度感、信覺、球美等ノ人來朝シテ、方物ヲ獻ス、○天皇位ヲ水高内親王元正ニ禪ル、在位七年、養老五年十二月崩ス、年六十一、第四十五代、元正天皇ハ、文武天皇ノ姪ナリ、○諸國ニ令シテ、調庸ノ斤兩長短ヲ定メ、諸帳簿ノ式ヲ頒ツ、又藤原不比等等ニ敕シテ、律令ヲ修メレ、國內ノ百姓ヲシテ、左ヲ右ニセシム、○始メテ、

呂古事記ヲ上ツル、又諸國ニ詔シテ、風土記ヲ奉ラレメ、郡郷ノ名務メテ佳字ヲ用非シム、○使ヲ七道ニ遣ハレテ、囚徒ヲ録セシム、○陸奥出羽ノ蝦夷、南島ノ奄美、夜久、度感、信覺、球美等ノ人來朝シテ、方物ヲ獻ス、○天皇位ヲ水高内親王元正ニ禪ル、在位七年、養老五年十二月崩ス、年六十一、第四十五代、元正天皇ハ、文武天皇ノ姪ナリ、○諸國ニ令シテ、調庸ノ斤兩長短ヲ定メ、諸帳簿ノ式ヲ頒ツ、又藤原不比等等ニ敕シテ、律令ヲ修メレ、國內ノ百姓ヲシテ、左ヲ右ニセシム、○始メテ、

諸國ニ按察使ヲ置キ、又、渡島、津輕、津司等ヲ、靺鞨國ニ遣ハシテ、其ノ風俗ヲ觀セシム。○舍人、親王、日本紀三十卷系圖一卷ヲ上ツル。○蝦夷反ス、丹治比、縣守等ヲシテ、討テテヨレヲ平ゲシム。○天皇位ヲ首皇子聖武ニ禪ル。在位九年、天平二十年四月崩ス、年六十九。
第四十六代聖武天皇ハ、文武天皇ノ子ナリ。○蝦夷反ス、藤原、宇合等ヲシテ、討テテコレヲ平ゲシム。○始メテ畿内、總管諸道、鎮撫使ヲ置キ、尋テ節度使ヲ置ク。○新羅來朝ノ期、三年ニ一タビスル

コ・ヲ討ス。○藤原廣嗣反ス、大野東人ヲシテ、討テテコレヲ平ゲシム。○天皇佛法ヲ尊崇シ、篤ク僧侶ヲ敬ス、金銅盧舍那佛ノ大像ヲ造ル、出家シテ、自勝滿ト稱ス、在位二十五年ニシテ、位ヲ、阿倍皇女孝謙ニ禪リ、天平勝寶八歲五月崩ス、年五十六。
第四十七代孝謙天皇ハ、聖武天皇ノ女ナリ、始メテ紫微内相ヲ置キ、藤原仲麻呂ヲ以テ、コレニ任シ、内外諸兵事ヲ掌ラン。攝、奈良麻呂其ノ權ヲ專ニスルヲ惡ミ、コレヲ除カンコトヲ欲シ、遂ニ

廢立ニ謀ル事泄レテ獄ニ下リ黨與罪ヲ得ル者
 衆シ時ニ藤原豐成右大臣タリ寛厚ニシテ時望
 ヲ得仲麻呂コレヲ忌ミ遂ニ豐成ヲ誣ヒテ其ノ
 黨ナリトス因リテ太宰員外帥ニ貶ス是ヨリ仲
 麻呂益横肆ナリ○天皇在位十年ニシテ位ヲ大
 炊皇子淳仁ニ讓ル

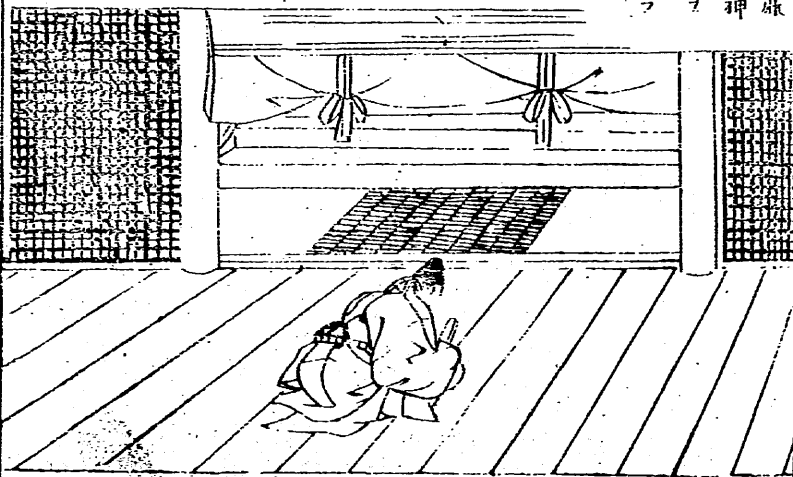
第四十八代淳仁天皇ハ崇道盡敬皇帝天武帝ノ子舍人彌
 ノ子ナリ○仲麻呂等ニ詔シテ官制ヲ改メシ
 ム又仲麻呂ニ名ヲ押勝ト賜ヒ姓ニ惠美ノ二字
 ヲ加ス○國司ノ交替六年ヲ以テ限リシ三年毎

ニ巡察使ヲ遣ハシテ名續ノ檢校セシム○初上
 皇孝謙押勝ノ寵ハ既ニシテ僧道鏡ヲ近クク天
 皇屢以テ言ヲナス上皇擇ハム五位以上ノ朝ニ
 召シ親國家ノ大事ヲ決ス押勝道鏡ノ爲ニ其寵
 ヲ奪ハレンコトヲ懼レ奏シテ四畿内伊勢美濃
 越前近江丹波播磨ノ國ノ兵事都督ヲ請ヒ遂ニ
 近江ニ據リテ反レ鹽燒王ヲ立テ帝ト稱ス藤
 原藏下麻呂ヲシテ討チテコレヲ誅セシム上皇
 詔シテ道鏡ノ大臣禪師トシ封戶職分田皆大臣
 ニ準ス天皇ヲ廢シテ淡路公トシ其ノ國ニ遷ス

世一淡路廢帝ト稱ス○天皇在位六年天平神護
 元年十月淡路ニ崩ス年二十三後明治三年謚ヲ
 上ル

第四十九代稱徳天皇ハ孝謙天皇重祚ノ號ナリ
 天皇既ニ佛ニ歸シ是ニ至リテ復萬機ニ臨メリ
 ○和氣王反ヲ謀リ事發シテ誅ニ伏ス詔シテ道
 鏡ヲ以テ太政大臣禪師トシ文武百官ヲシテ拜
 賀セシム尋テ法王ノ位ヲ授ク興服飲食皆供御
 ニ擬ヒシメ大小ノ政其伎ヲ取ラザルハ無シ會
 太宰ヤ主神習宜阿曾麻呂宇佐八幡大神ノ託宜

清麻呂神教ヲ請フ圖



ト矯リ道鏡ヲレテ位ニ
 即カシメバ天下泰平ナ
 ラント奏ス是ニ於テ天
 皇和氣清麻呂ヲ守佐ニ
 遣ハシテ神教ヲ請ハレ
 發スルニ臨ミテ道鏡
 又示スニ恩威ヲ以テシ
 其ノ非望ヲ遠ゲンコト
 ヲ欲ス清麻呂歸リテ神
 語ヲ奏シテ曰ク我が國

開闢以來君臣ノ分定レリ未_レ臣ヲ以テ君トセシ
コトアラズ天_ノ日嗣ハ必皇緒ヲ立テ早ク無道
ノ人ヲ除ケト道鏡怒リテ清麻呂ヲ大隅ニ流シ
人ヲシテコレヲ途ニ殺サシメントシテ嚴ハ
○天皇在位五年前後合セテ十五年ニシテ崩ス
年五十三

第五十代光仁天皇ハ天智天皇ノ孫ニシテ春日
宮_{施基}天皇_{親王}ノ子ナリ天皇天平勝寶以來國ニ儲
貳無クレテ人々相疑ヒ横禍ニ罹ル者多キヲ慮
リ酒ヲ縱ニシテ自晦ス稱徳天皇崩ズルニ及ビ

テ遺詔ヲ奉シ即位シ道鏡ヲ遣下野藥師寺別當
ニ敗シ清麻呂ヲ召還レテ本位ニ復ス○詔レテ
内外ノ官員ヲ省ク又三關邊要ノ外ハ悉諸國ノ
冗兵ヲ除キコレヲシテ農耕ニ就カシム三關ハ
ハ伊勢ノ鈴鹿美濃ノ不破越前ノ愛發ナリ○天
皇在位十二年ニシテ位ヲ皇太子ニ讓リ尋テ崩
ズ年七十三

第五十一代桓武天皇ハ光仁天皇ノ子ナリ都ヲ
山城ニ遷シテコレヲ平安城トイフユリヨリ以
後歷代ノ皇居タリ○淡海三船ノシテ神武天皇

ヨリ以來、列朝ノ謚號ヲ定メシム、○詔シテ、三國
 ヲ廢シ、公私ノ往來ニ使テ、是ノ時蝦夷叛反ス、大
 伴弟麻呂、坂上田村麻呂等ヲレテ討チテコレヲ
 平ケシム、○菅野真道等續日本紀ヲ上ル、天皇在
 位、二十年ニレテ崩ズ、年七十

第五十二代、平城天皇ハ、桓武天皇ノ子ナリ、○皇
 弟伊豫親王、反ヲ謀ルト告ム者アリ、因リテ死ヲ
 賜ヒ、其ノ黨ヲ滅ス、○天皇在位四年ニレテ、
 位ヲ皇太弟ニ讓ル、天長元年七月崩ス、年五十一、
 第五十三代、嵯峨天皇ハ、平城天皇ノ同母弟ナリ、

○尚侍藤子、平城上皇ニ復辟ヲ勸ム、旨ヲ矯メテ、
 都ヲ平城ニ遷サントヒ、人心騒然クシ、天皇詔シ
 テ、藤子ノ罪ヲ暴白シ、其ノ兄藤原仲成ヲ收メ、止
 皇怒リテ、兵ヲ率テ東國ニ入ラントス、天皇乃、仲
 成ヲ誅シ、兵ヲ遣ハシテ、上皇ヲ路ニ邀キラシム、
 上皇進ムコトヲ得ズ、因リテ宮ニ還リ、剃髮シ、藤
 子自盡シテ、事平ダリ、○天皇博學ニシテ、文ヲ能
 クシ、書ヲ巧ニス、在位十四年ニシテ、位ヲ皇太弟
 ニ讓ル、承和九年七月崩ス、年五十五、
 第五十四代、淳和天皇ハ、嵯峨天皇ノ弟ナリ、○清

原夏野等ニ救レテ令義解ヲ撰ハシム、○夏野奏
 レテ親王ヲ諸國守トシ、庶務ヲ習メシムコト
 ヲ請フ、是ニ於テ上總常陸上野ヲ以テ親王ノ任
 國トス、○天皇在位十年ニシテ位ヲ皇太子ニ讓
 ハ承和七年五月崩ス、年五十五、

第五十五代仁明天皇ハ、嵯峨天皇ノ子ナリ、○伴
 健岑、橘逸勢等陰ニ太子恒貞ヲ奉シテ、天皇ヲ廢
 セシムコトヲ謀リ、事發ル、因ッテ太子ヲ廢シ健岑
 逸勢ヲ流シ處ス、○日本後紀成ル、○天皇在位十
 七年ニシテ崩ス、年四十一、

第五十六代文德天皇ハ、仁明天皇ノ子ナリ、天皇
 資性明察、心ヲ政事ニ留メテ、能ク人ノ姦ヲ知ル、
 但多病ナルヲ以テ、事ヲ視ルコトアタハズ、在位
 僅ニ八年ニシテ崩ズ、時人コレヲ惜ム、年三十二、
 第五十七代清和天皇ハ、文德天皇ノ子ナリ、天皇
 九歳ニシテ即位ス、政ヲ藤原良房ニ攝セシム、其
 ノ外祖タルヲ以テナリ、既ニ、テ良房薨ス、天皇
 政ヲ親ラシ、日萬機ヲ紫宸殿ニ視ル、是ヲ以テ内外
 肅然トシテ、國家寧靜ナリ、○貞觀格式及續日本
 後紀成ル、○天皇在位十八年ニシテ、位ヲ皇太子

ニ讓ル、元慶四年十二月崩ズ、年三十一

第五十八代、陽成天皇ハ、清和天皇ノ子ナリ、天皇

十歳ニレテ即位ス、藤原基經政ヲ攝ス、良房ノ例

ニ沿カヘルナリ、○出羽ノ夷符反ス、藤原保則小

野春風等ヲシテ討テコレヲ平ゲシム、○文徳

天皇實錄成ル、○天皇遊嬉度無ク、屢不幸ヲ殺ス、

是ニ於テ、基經公卿ト謀リ、天皇ニ請ヒテ、位ヲ讓

ラシム、是ノ時年十七在位八年ナリ、天曆三年九

月崩ズ、年八十二、

第五十九代、光孝天皇ハ、仁明天皇ノ子ナリ、○天

皇謙恭寛仁ナリ、故ニ、基經群臣ト迎ヘテコレヲ

立ツ、○公卿奏レテ、五位以上ノ封祿ヲ減センコ

トヲ請フ、許サズ、敕シテ、御服ノ絹綿ノ數ヲ減ス

○天皇在位三年ニレテ崩ス、年五十八

第六十代、宇多天皇ハ、光孝天皇ノ子ナリ、○詔シ

テ、萬機巨細ト無ク、一切基經ニ關白セシム、關白

此ニ始マル、尋テ、又ニ宮ニ準ス、○天皇嘗テ畫工

ヲシテ、殷周以來ノ名臣ノ像ヲ、紫宸殿ノ障子ニ

圖セシム、コレヲ賢聖障子トイフ、在位十年ニシ

テ、位ヲ皇太子ニ讓ル、承平元年七月崩ズ、年六十

五、

第六十一代醍醐天皇ハ

守多天皇ノ子ナリ、○藤

原時平、菅原道真ト共ニ

政ヲ執ル、道真庶務ヲ綜

理シ、裁決流ル、ガ如シ、

天下望ヲ屬ス、時平等

レヲ嫉ミテ誣フルニ異

圖アルヲ以テス、天皇其

ノ讒ヲ信シテ道真ヲ太

宰權師ニ左遷ス、天下コトヲ寃トス、○天皇心ノ

政事ニ留メ温顔ヲ以テ群臣ニ對シ、其ノ言ヲ盡

サレム、又嘗テ寒夜ニ方リ、御衣ヲ脱トラ曰ク、凍

餒ノ民以テ想フベキノリト、故ニ後世稱シテ延

喜ノ政トイフ、延喜ハ當時ノ年號ナリ、此ノ世ニ

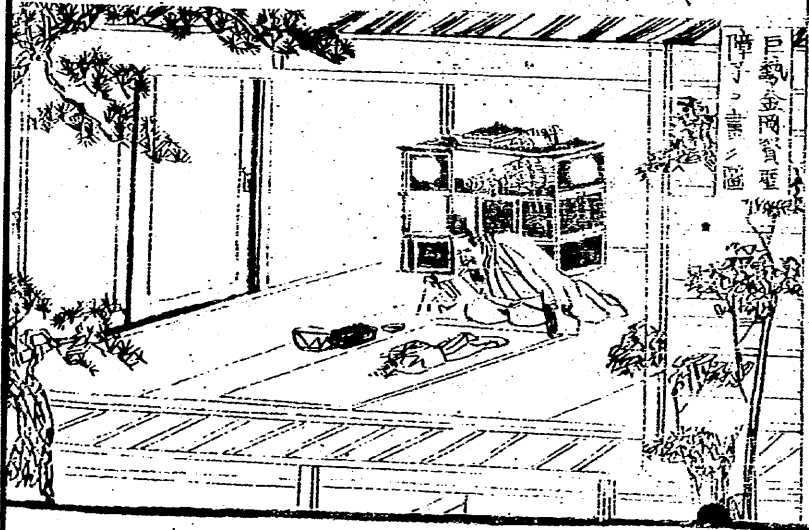
延喜式、及三代實錄成ル、○天皇在位三十三年、位

ヲ皇太子ニ譲リ、尋テ崩ス、年四十六、

第六十二代朱雀天皇ハ、醍醐天皇ノ子ナリ、○平

將門、伯父常陸大掾國香ヲ常陸ニ殺ス、武藏權守

興世王、凶險ニシテ亂ヲ好ム、將門延キテ謀主トシ



巨勢金剛堂
時平の書齋

下總ニ反シ坂東諸國ヲ陷ミ都ヲ猿島ニ建テ偽
 百官ヲ備ヘ自新皇ト稱ス是ノ時ニ當リテ藤原
 純友既ニ難ヲ伊豫ニ起シ東西相應シ天下駭然
 スリ因リテ藤原忠文ヲ征東大將軍トス未至
 サルニ平貞盛藤原秀郷等將門ヲ討ス尋テ橋遠
 保純友ヲ伊豫ニ誅シ首ヲ京師ニ傳ヘ賊悉平ス
 レテ承平天慶ノ亂トイフ承平天慶モ亦當時
 ノ年號ナリ○天皇在位十六年ニシテ位ヲ皇太
 弟ニ讓ル天曆六年八月崩ス年三十

第六十三代村上天皇ハ朱雀天皇ノ同母弟ナリ

○天德四年九月禁中火久累世ノ寶器及籍多ク
 焚ケタリ獨神鏡ノミ灰燼ノ中ニ在リテ形質損
 ゼス○天皇嘗テ一老吏ニ問ヒテ曰ク朕ガ治延
 喜ノ朝ト得失何如對ヘテ曰ク老吏何ヲカ知ラ
 シ唯主殿寮進ハ所ノ松明舊ニ比スレバ多クシ
 テ率分堂ニ草生スルヲ異ナリトスルノミト天
 皇大ニ愧ヂテ益政事ヲ勤ム時ニ年號ヲ天曆ト
 イフ故ニ後世治ヲ説ク者必延喜天曆ヲ稱ス○
 天皇在位二十一年ニシテ崩ス年四十二
 第六十四代冷泉天皇ハ村上天皇ノ子ナリ○攝

繁延等爲平親王ヲ奉シテ亂ヲ作サンコトヲ謀
 ヲ事發シテ流ニ處ス○天皇儲貳タリシトキヨ
 リ心疾ヲ患フ位ニ即クニ及ビテ増劇シ是ヲ以
 テ政外戚藤原氏ニ歸ス朝綱ノ振ハザルコト寔
 ニ此ニ始マル○天皇在位二年ニシテ位ヲ皇太
 弟ニ讓ル寛弘八年十月崩ス年六十二
 第六十五代圓融天皇ハ冷泉天皇ノ同母弟ナリ
 在位十五年ニシテ位ヲ皇太子ニ讓ル正曆二年
 二月崩ス年三十三

第六十六代華山天皇ハ冷泉天皇ノ子ナリ○天
 皇即位ノ初心ヲ政事ニ委シ朝綱肅然タリ女御
 祇子卒スルニ及ビテ悲哀シテ已マズ遂ニ藤原
 道兼ニ誘ハレテ潛ニ宮ヲ出デ華山ノ元慶寺ニ
 入り落髮シテ僧トナル○天皇在位僅ニ二年寛
 弘五年二月崩ス年四十一
 第六十七代一條天皇ハ圓融天皇ノ子ナリ○關
 白藤原道長權ヲ專ニス天皇心コレヲ疾ムト雖
 遂ニ制スルコト能ハズ○天皇在位二十五年ニ
 シテ位ヲ皇太子ニ讓ル寛弘八年六月崩ス年三
 十三

第六十八代三條天皇ハ冷泉天皇ノ子ナリ。○藤原道長益專恣ナリ。○天皇在位五年ニレテ位ニ皇太子ニ讓ル。寛仁元年五月崩ス。年四十二。

第六十九代後一條天皇ハ一條天皇ノ子ナリ。○

三條天皇敕レテ子敦明親王ヲ立テ、後一條天皇

ノ儲貳トス。其ノ統ヲ存センコトヲ欲スレバナ

リ、既ニレテ東宮位ヲ辭ス。道長奏シテ、小一條院

ト號シ、上皇ニ准レ、皇弟敦良親王後朱雀天皇ヲ立テ、

皇太子トシ、道長朝ニ立ツコト、四十餘年、一家ニ

シテ三右ヲ出ダス。天皇皇太子皆其ノ女ヲ生ム

所ナリ。○天皇在位二十

年ニレテ崩ス。年二十九。浦原公賴武

第七十代後朱雀天皇ハ前ト源兼光ニ奉リ爲スル間

後一條天皇ノ同母弟ナ

リ。○皇居火ク、神鏡火中

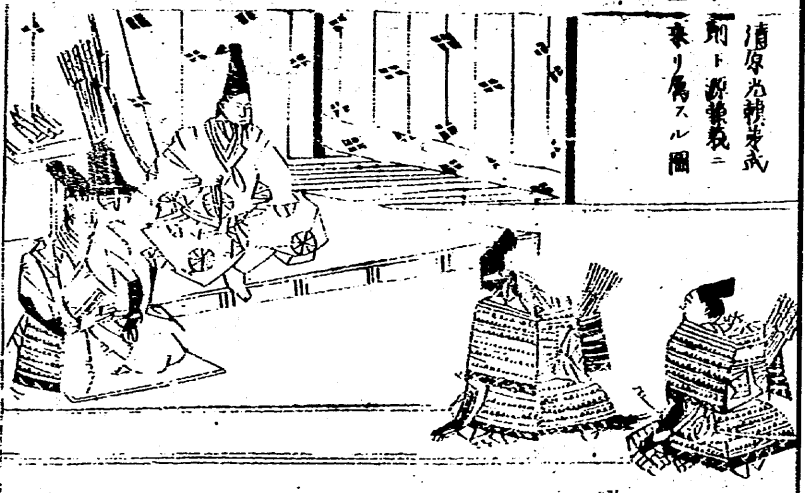
ニ在リテ、毀損セズ。○天

皇在位九年位ヲ皇太子

ニ讓ル。尋テ崩ス。年三十

七

第七十一代後冷泉天皇



三手

後朱雀天皇ノ子ナリ、○陸奥ノ俘囚、宍保時
 亂ヲ作ス、源賴義ニ命ジテコレヲ討タシム、其ノ
 子貞任又叛キ、藪益張ル、賴義出羽ノ豪族清原武
 則ヲ招致シ共ニ入り討チテコレヲ平クコトシテ
 前九年ノ役トイフ、○天皇在位二十三年ニシテ
 崩ス、年四十四

日本略史上卷終

明治十四年五月御届
 同年同月發兌

大阪府平民

翻刻人 中野啓藏

大阪府下東區
 内本町二丁目一番地